

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 1階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成30年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七番館がオープンして二年目となります。去年は、入居者様の気持ちに寄り添い安心した環境の提供ができるよう力を入れてきました。今年度は、職員のスキルアップに力を入れています。法人内の勉強会や研修だけではなく、外部の勉強会などに積極的に参加を行い、日々のケアに取り入れていけたらと考えております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190201251-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190201251-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成30年11月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームハートの家七番館」は、札幌市郊外の自然豊かな住宅地に立地している。近隣には同法人の特別養護老人ホームや別法人のグループホームがあり、水害想定避難訓練を合同で実施して協力関係を築いている。建物内は、明るく清潔感のある広々とした造りになっている。管理者は、定期的に職員と個人面談を実施して意見や提案を聞き取り、主任やリーダーと打ち合わせを重ねながら日々のケアや運営に反映させて働きやすい職場環境の整備に努めている。介護計画は、センター方式シートを活用して3か月ごとに書類を更新し、一人ひとりの利用者の思いを重視した細やかな計画を作成している。アセスメントも、職員参加の下に援助内容項目に沿って具体的に評価を行い、全職員で統一した対応を行っている。外出や外気に触れる機会を積極的に採り入れ、日常的な散歩や全員でのドライブなどに出かけている。冬季も、利用者と一緒に雪かきやゴミ捨てをしている。誕生日は、本人の意向に沿って外食やプレゼントの買い物に個別支援で出かけることもある。浴室にはリフト付きシャワーキャリーを備えて、身体状況が変化しても湯船に入ることが可能になっている。個人情報に配慮して、各種書類はパソコンで管理している。職員は、明るい笑顔で利用者に優しく接しながら家庭的な温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人一人に寄り添い、ご本人様の要望などを聞かせていただきながら、管理者と職員間で相談をしながらより良い方法を検討し実践している。	法人理念を基に、利用者との人間関係やチームでの協力、個性を大切にされた支援などについて謳った「7番館基本方針」を開設時の職員と一緒に作成している。定期的に再確認しながら、更に職員間で共有していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、ご家族様や町内会会長にお誘いのご連絡をしています。また、自動火災報知機により電話連絡が、施設前の理容室、町内会長にいくようになっていきます。入居者様も参加してお話されています。	行事開催時に、民謡や歌をうたうボランティアが来訪して利用者や交流している。事業所の夏祭りに、近隣施設の利用者も参加している。今後は近くの保育園や小学校に働きかけながら、利用者や交流する機会を作っていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の見学に来られた方々や運営推進会議の場において、相談があった際には支援できるようにお話をしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中にて施設の現状や活動の内容についての報告をしている。その中でいただいた皆様からの意見を取り入れている。	地域包括支援センター職員が参加して、事業所の報告と身近な事に関する勉強会を毎回実施している。家族に会議案内を送付して電話でも出席を依頼し、時々家族の参加はあるが地域役員の参加は得られていない。議事録も家族に送付している。	地域包括支援センターの協力なども得ながら、地域役員に会議への参加を依頼するよう期待したい。また、会議案内に勉強会のテーマを記載して、参加できない家族の質問や意見なども会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に毎月初めに提出している入居状況調査票、また市より依頼されるアンケート等を報告しております。	管理者は、役所に書類提出や介護保険の更新手続きなどで訪問している。保護課の職員の来訪時や区役所を訪問した時は、利用者の情報を交換しながら連携を深めている。何かあれば、電話などでも相談できる関係を普段から築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内でも身体拘束について係を決め、定期的に、身体拘束の打ち合わせや勉強会を行っております。また、外部の研修などにも参加しております。	法人マニュアルと「身体拘束ゼロへの手引き」を整備し、定期的に具体的な事例を挙げて勉強会を実施している。「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を具体的に学ぶ機会が少ないので、定期的に内部研修などで確認していきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外の研修参加や施設内での勉強会を行うことで、管理者・職員の虐待にかかわる意識向上を行っている。		

グループホーム ハートの家 七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度など利用するケースが無い ため具体的なかわりはありませんが、今後研修や学ぶ機会を作りたいとおもいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と契約書の読み合わせや、ご家族様からの質問にお答えをしています。また退去においても今後の想定される生活についてもできるだけ伝えることができるようにしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱を設置しております。現在投函されたことはないです。ご家族様来訪の際など、ご意見を聞いております。	面会時に利用者の様子を伝えて、意見や要望を聞き取っている。家族の意見は相談支援記録などに残しているが、今後は継続的に職員間で情報が共有できるように、些細な意見や職員の気づきを個別に記録していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際など職員から意見があったさいには、都度聞く機会をつくっています。	会議や日常業務の中で、管理者やリーダーは各職員の意見や提案を聞き取り、日々のケアや運営に反映させている。職員の提案で、掃除時間帯を変更したこともある。管理者は、3~4か月ごとに職員と個人面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で管理者や職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し管理者会議等での議題としています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や法人外の研修を通し理式の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区介護施設事業者の方があつまる屯田いたわりリンクに参加を行い、交流に努めています。また、近隣の介護施設の方とも定期的に話を行い、情報交換を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前にご自宅等にて面談を行い、ご本人様の様子やご家族様の要望などを確認している。入所されてからも、ご本人様の話を傾聴し、また、様子や表情の変化を観察し安心していただける環境づくりにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当の職員がお会いすることで顔なじみの関係を築き、今までの生活がどのように過ごされていたかお話を聞けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の前にご本人様やご家族様担当のケアマネージャーとお会いし生活歴や性格、入居にあたり、どのようなサービス利用について説明を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることを見つけ役割を探し利用者様と職員との県警が築けるよう努める。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の望む意向やご家族様来訪の際にご本人様の生活の様子を伝え、ご家族様のご希望や思いを確認し日々の生活に活かしていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご入居者様、担当ケアマネージャーからお話を聞き、今まで大切にしていたなじみの関係を維持できるよう努める。また、施設での他入居者様や職員となじみの関係なれるよう安心して頂ける施設生活を作っていく。	仕事関係の知人が来訪する方もいる。また、前から利用者の世話をしていた方が訪ねて来て、一緒に出かけて友人に会って来たり食事を楽しんでくこともある。職員と近隣の美容室に行ったり、家族と結婚式に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の性格を考え、他入居者様と一緒に楽しく過ごせるようにする。また、時には職員が間に入り、入居者様通しが一人にならないようななかかわりの提供をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後の生活のお話をお聞きしたり、その後気になる点があれば、いつでも相談できる機会の提供をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様と話をしながら、気持ちを汲み取り、介護にあたるようにしている。また自らの意思を伝えることが難しい場合でも今までの生活歴やご本人様の様子を見ながら望む生活を提供していきます。	会話や表情、家族からの情報などを基に希望や意向を把握している。趣味や嗜好などの情報もセンター方式シートを活用して3か月ごとに書類を更新し、本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から可能な限り話を伺わせていただいている。また担当ケアマネージャーと連絡を取り、サービス利用の把握をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の一人ひとりの生活リズムを意識し本人の体調や心身の状態の変化に配慮し日々の生活を提供しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様、職員と状況を確認しながら計画作成を行っている。	全職員で援助内容項目に沿って3か月ごとにモニタリングを行い、管理者と計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。介護記録はパソコンに入力している。今後は、介護計画に沿って変化や課題も介護記録に記入していきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活を記録し、職員が共有を行う。また、ご入居者様の変化についても職員共有を行い今後の介護計画の参考としていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画以外のことで都度職員話をおこない柔軟に解決していくよう心掛ける。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域におけるスーパーや病院。美容室などの地域資源を活用し、入居者様に楽しんでいただけるよう支援いたします。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に今まで利用をしていたかかりつけの病院を確認を行い、ご家族様、ご本人様が望む場合には継続し支援をできるようにする。	かかりつけ医を継続している利用者は多いが、殆ど事業所で受診を支援し、主治医と連携を深めながら適切な対応を行っている。受診記録は個別にパソコンで管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師はおりませんが、医療連携や往診の看護師と相談を行い、入居者様の体調がすぐれない場合など連携をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中。退院の際など、施設で過ごしていたご本人様の様子をお伝えし情報の共有を行っていきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様のご意向を確認し事業所でできることの説明を行い、できる範囲での希望に備え担当医師と相談を行い、話し合える機会を設ける予定でいます。	「重度化に関する指針」を作成して家族に説明し、家族の意向に沿って同意書を取り交わしている。常時医療行為が必要になった時は対応が難しいことを伝えている。今後は、看取りの勉強会も実施していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部での勉強会に参加だけでなく、施設内での緊急時の勉強会を行うようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練や勉強会だけでなく、地域の他施設と連携を行い、災害時の訓練を行っています。	防災設備会社の協力の下、昼夜の火災を想定した避難訓練を年2回実施している。近隣のグループホームと2年ごとに合同避難訓練を実施し、お互いに協力体制を築いている。地震時のケア別の対応について、職員間で話し合いたいと考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大事にし、居室訪問の際や更衣の際、また排泄時などプライバシーの配慮を行っております。	職員は、利用者に対して行動を抑制する言葉かけをせず、随時適切な言葉かけをするよう勉強している。個人記録はパソコンに入力し、人目につかないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を傾聴しながら、要望をくみ取り、ご本人が安心できる選択が出来るように配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の日常生活において、ペースを大事にし自由に過ごしていただいております。また、趣味や嗜好などにもできる限り協力をし行える機会を提供いたしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様やご家族様と話し合い、好きな恰好や髪形など維持できるよう職員対応を致します。		

グループホーム ハートの家 七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみについて、食事の時間だけでなく、事前準備から片付けまで職員と一緒に会話を行いながら楽しめるよう努めています。	出前で寿司を頼んだり、外食で和食やパン、ドーナツを食べに出かけている。誕生日にはケーキを購入するが、日々のおやつでも炊飯器ケーキを作ったり、たこ焼きレクで楽しめる機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分の摂取量など、記録をしながらどの程度摂取が出来ているかの把握に努めている。また、医師の指導や血液検査の結果なども参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きなどを行っていただいている。歯科医師の往診など協力を得ながら、配慮すべき点を把握して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄の時間間隔や表情等の変化など確認をしながら、各々にあった声掛けなどを行っている。	排泄面で自立している人も確認しながら、排泄回数や水分摂取量をメモして、パソコンに個人別に記録している。時間や行動、仕草を観察して適切にトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔や食事・水分の摂取量などを把握しながら、対応をしている。また医師の指示の下、下剤の調整を行っていきます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調や気分に合わせて柔軟に対応を致します。	午前中の時間帯で3名程度が入浴し、一人週2回の入浴を支援している。入浴を嫌がる方に事前に手紙で入浴時間を案内したり、タイミングや時間帯、曜日を変えて入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の要望に沿いながら、部屋の照明や寝具等、安心できるように配慮をしている。また寝つきが良くない際には、職員寄り添いお話しや見守り、希望によってはホットミルクの提供などしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋や往診・受診の際の説明等を踏まえ、職員全体で、内容を共有し、服薬時も確認をしながら服用して頂く。また、症状の変化についても引き継ぎをしながら変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことや好きなことを聞きながら一緒に取り組んだり、お願いしたりしている。		

グループホーム ハートの家 七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様の希望に添いながら散歩や買い物、外食など出かけられるよう取り組んでおります。また、職員と会話の中で、外を見る機会や外に出る機会などもできる限り多く提供しております。	散歩では、事業所周辺にある公園に出かけている。外出で前田森林公園や円山動物園、石狩の漁港に出かけたり、車窓から大通りや札幌駅周辺の街並みを見物している。冬季も、雪かきやゴミ捨てで玄関先に出たり、外気浴をするなどの機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については基本的には施設で管理しておりますが、外出時には、ご入居者様の好きなものを買うよう商品を選んでいただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望の際などに、随時電話をできるように支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾や清掃など保清につとめることで、不快にならないよう配慮をしている。また、温度や湿度、においなどにも配慮しております。	室内は落ち着いた色合いで明るく、ゆとりのあるスペースになっている。ユニットの入り口から全体が見渡せる造りで、居間、食堂、廊下が広がっている。空気清浄機や加湿器を使っている快適な空間で、利用者はソファや食卓椅子に腰かけて自由な暮らしをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様の意見を聞きながら過ごしやすいソファや椅子など設置を行い、過ごしやすい空間を作っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、ご本人様の使い慣れたもの(家具類)などをご本人の使いやすい配置等配慮をしながら、居心地良く過ごせるように努めている。	居室にはクローゼットが備え付けられている。テレビやテーブル、椅子、タンスなどを持ち込んでいる。タンスの上に鏡を置いたり、家族の写真を飾り自分の家として安心しながら普通に暮らして行ける部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手すりを設置し自力でつかまり安全に立ち上がり、歩行できるよう工夫をしております。また、居室には表札や写真など利用し自立した生活が送れるよう工夫をしております。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 2階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成30年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七番館がオープンして二年目となります。去年は、入居者様の気持ちに寄り添い安心した環境の提供ができるよう力を入れてきました。今年度は、職員のスキルアップに力を入れています。法人内の勉強会や研修だけではなく、外部の勉強会などに積極的に参加を行い、日々のケアに取り入れていけたらと考えております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190201251-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190201251-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人一人に寄り添い、ご本人様の要望などを聞かせていただきながら、管理者と職員間で相談をしながらより良い方法を検討し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、ご家族様や町内会会長にお誘いのご連絡をしています。また、自動火災報知機により電話連絡が、施設前の理容室、町内会長にいくようになっていました。入居者様も参加してお話されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の見学に来られた方々や運営推進会議の場において、相談があった際には支援できるようにお話しをしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中にて施設の現状や活動の内容についての報告をしている。その中でいただいた皆様からの意見を取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に毎月初めに提出している入居状況調査票、また市より依頼されるアンケート等を報告しております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内でも身体拘束について係を決め、定期的に、身体拘束の打ち合わせや勉強会を行っております。また、外部の研修などにも参加しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外の研修参加や施設内での勉強会を行うことで、管理者・職員の虐待にかかわる意識向上を行っている。		

グループホーム ハートの家 七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度など利用するケースが無いため具体的なかわりはありませんが、今後研修や学ぶ機会を作っていきたいとおもいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と契約書の読み合わせや、ご家族様からの質問にお答えをしています。また退去においても今後の想定される生活についてもできるだけ伝えることができるようにしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱を設置しております。現在投函されたことはありません。ご家族様来訪の際など、ご意見を聞いております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際など職員から意見があったさいには、都度聞く機会をつくっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で管理者や職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し管理者会議等での議題としています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や法人外の研修を通し理式の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区介護施設事業者の方があつまる屯田いたわりリンクに参加を行い、交流に努めています。また、近隣の介護施設の方とも定期的に話を行い、情報交換を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前にご自宅等にて面談を行い、ご本人様の様子やご家族様の要望などを確認している。入所されてからも、ご本人様の話を傾聴し、また、様子や表情の変化を観察し安心していただける環境づくりにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当の職員がお会いすることで顔なじみの関係を築き、今までの生活がどのように過ごされていたかお話を聞けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の前にご本人様やご家族様担当のケアマネージャーとお会いし生活歴や性格、入居にあたり、どのようなサービス利用について説明を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることを見つけ役割を探し利用者様と職員との県警が築けるよう努める。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の望む意向やご家族様来訪の際にご本人様の生活の様子を伝え、ご家族様のご希望や思いを確認し日々の生活に活かしていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご入居者様、担当ケアマネージャーからお話を聞き、今まで大切にしていたなじみの関係を維持できるよう努める。また、施設での他入居者様や職員となじみの関係なれるよう安心して頂ける施設生活を作っていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の性格を考え、他入居者様と一緒に楽しく過ごせるようにする。また、時には職員が間に入り、入居者様通しが一人にならないようななかかわりの提供をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後の生活のお話をお聞きしたり、その後気になる点があれば、いつでも相談できる機会の提供をしています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様と話をしながら、気持ちを汲み取り、介護にあたるようにしている。また自らの意思を伝えることが難しい場合でも今までの生活歴やご本人様の様子を見ながら望む生活を提供していきます。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から可能な限り話を伺わせていただいている。また担当ケアマネージャーと連絡を取り、サービス利用の把握をする。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の一人ひとりの生活リズムを意識し本人の体調や心身の状態の変化に配慮し日々の生活を提供しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様、職員と状況を確認しながら計画作成を行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人やご家族様、職員と状況を確認しながら計画作成を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活を記録し、職員が共有を行う。また、ご入居者様の変化についても職員共有を行い今後の介護計画の参考としていく。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域におけるスーパーや病院。美容室などの地域資源を活用し、入居者様に楽しんでいただけるよう支援いたします。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に今まで利用をしていたかかりつけの病院を確認を行い、ご家族様、ご本人様が望む場合には継続支援をできるようにする。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師はおりませんが、医療連携や往診の看護師と相談を行い、入居者様の体調がすぐれない場合など連携をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中。退院の際など、施設で過ごしていたご本人様の様子をお伝えし情報の共有を行っていきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様のご意向を確認し事業所でできることの説明を行い、できる範囲での希望に備え担当医師と相談を行い、話し合える機会を設ける予定でいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部での勉強会に参加だけでなく、施設内での緊急時の勉強会を行うようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練や勉強会だけでなく、地域の他施設と連携を行い、災害時の訓練を行っています。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大事にし、居室訪問の際や更衣の際、また排泄時などプライバシーの配慮を行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話しを傾聴しながら、要望をくみ取り、ご本人が安心できる選択が出来るように配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の日常生活において、ペースを大事にし自由に過ごしていただいております。また、趣味や嗜好などにもできる限り協力をし行える機会を提供いたしてます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様やご家族様と話しを行い、好きな恰好や髪形など維持できるよう職員対応を致します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみについて、食事の時間だけでなく、事前準備から片付けまで職員と一緒に会話を行いながら楽しめるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分の摂取量など、記録をしながらどの程度摂取が出来ているかの把握に努めている。また、医師の指導や血液検査の結果なども参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きなどを行っていただいている。歯科医師の往診など協力を得ながら、配慮すべき点を把握して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄の時間間隔や表情等の変化など確認をしながら、各々にあった声掛けなどを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔や食事・水分の摂取量などを把握しながら、対応をしている。また医師の指示の下、下剤の調整を行っていきます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調や気分に合わせて柔軟に対応を致します。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の要望に沿いながら、部屋の照明や寝具等、安心できるように配慮をしている。また寝つきが良くない際には、職員寄り添いお話しや見守り、希望によってはホットミルクの提供などしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋や往診・受診の際の説明等を踏まえ、職員全体で、内容を共有し、服薬時も確認をしながら服用して頂く。また、症状の変化についても引き継ぎをしながら変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことや好きなことを聞きながら一緒に取り組んだり、お願いしたりしている。		

グループホーム ハートの家 七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様の希望に添いながら散歩や買い物、外食など出かけられるよう取り組んでおります。また、職員と会話の中で、外を見る機会や外に出る機会などもできる限り多く提供しております。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については基本的には施設で管理しておりますが、外出時には、ご入居者様の好きなものを買えるよう商品を選んでいただいております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望の際などに、随時電話をできるように支援しております。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾や清掃など保清につとめることで、不快にならないよう配慮をしている。また、温度や湿度、においなどにも配慮をしております。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様の意見を聞きながら過ごしやすいソファや椅子など設置を行い、過ごしやすい空間を作っております。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、ご本人様の使い慣れたもの(家具類)などをご本人の使いやすい配置等配慮をしながら、居心地良く過ごせるように努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手すりを設置し自力でつかまり安全に立ち上がり、歩行できるよう工夫をしております。また、居室には表札や写真など利用し自立した生活が送れるよう工夫をしております。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ハートの家七番館

作成日：平成 30年 12月 3日

市町村受理日：平成 30年 12月 4日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を行うなかで、現在少人数の方の参加のみで行われており、より多くのご家族様、地域の方に参加していただきたい。	現在参加して頂いてるご家族様や地域の方の参加人数が 2名から3名程度の参加なので、今後の目標としては、地域の方(町内会会長、もしくは、他の役員の方)とご家族様、民生委員の方など今以上の参加をしていただけるよう努めていく。	ご家族様への案内文の中に施設で取り組んでいる勉強会の内容やご家族様から気になる場所など記入をしていただき、今以上に運営推進会議に参加していただくようにする。	2か月
2	1	パートナーの理念は職員が理解をしているが、自施設の理念については、まだまだ周知や把握がなされていない。	パートナーの理念に基づき自施設の理念があるので、自施設の理念に基づいて日々のケアに取り組んでいく。	来年度には一度、職員と話をし、自施設の理念について一度検討を行う。その後定期的に会議のなかなどで話し合い理解に努める。	1年
3	26	チームで作る介護計画について、今以上にケアプランの利用とご家族様からのご意見を確認し、より良い生活を行えるようしていきたい。	介護計画の把握やご家族様から今以上にご意見を聞き日々の生活に取り組んでいく。	ご家族様からお話を聞く際に、次回の介護計画の作成など伝えることでより具体的にご家族様からのご意見を聞きとることをしていきたい。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。